

弟子の一人が言った。「先生、御覧ください。なんと見事な石、なんと立派な建物でしょう。」主イエスは言われた。「この大きな建物に見とれているのか。ここに積み上がった石は、一つ残らず崩れ落ちる。」（マルコ福音書13章1節b～2節）

イエスは話し始められた。「人に惑わされないように気をつけなさい。私の名を名乗る者が大勢現れ、『私がそれだ』と言って、多くの人を惑わすだろう。戦争のことや戦争のうわさを聞いても、慌ててはいけない。それは必ず起こるが、まだ、世の終わりではない。」……「また、私の名のために、あなたがたはすべての人に憎まれる。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。」（マルコ福音書13章5節～7節、13節）

主イエスがエルサレム神殿の境内から出て行こうとされた時、一人の弟子が、「先生、御覧ください。なんと見事な石、なんと立派な建物でしょう」と言った。神殿はヘロデ大王が建てた荘厳な大神殿であった。どの宗教も本山には、参拝者の目に荘厳で、神々しく迫る神社、仏閣を建てている。エルサレム神殿は、その最たるものであった。イスラエル旅行に行った時、神殿の模型を見たが、模型でも見とれるほどで、本物は圧倒するような神殿であったと想像できる。弟子が感嘆したのは当然であろう。すると主イエスは、「この大きな建物に見とれているのか。ここに積み上がった石は、一つ残らず崩れ落ちる」と答えられた。仏教では世の無常を説き、「形あるものは必ず滅す」と言う。確かにどんなに頑強、壮大であっても、地上に造られたものはいずれ壊れる。主イエスは、大きな石で積み上げられた石も、一つ残らず崩れ落ちると、こともなげに神殿崩壊を予告された。弟子たちは、この言葉を心に深く留めた。

神殿を出て、オリーブ山まで来て、神殿の方に向かって座った。夕日に映える神殿は荘厳そのもので、弟子たちの目を奪った。その時、彼らは主イエスの「この大きな建物に見とれているのか。ここに積み上がった石は、一つ残らず崩れ落ちる」という言葉を思い出した。この大神殿が崩れ去るなどということとはあり得ない。もし、あるとすれば、それは、世の終わり、終末の時である。ペトロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレは密かに「おしゃってください。そのことはいつ起こるのですか。また、それがすべて実現するときには、どんな徴がありますか」と問うた。弟子たちのこの問いに答え、主イエスは終末時の徴とそれに備える心構えについて話された。ここは「マルコの黙示録」と言われ、黙示文学的表現で著されている。言葉通りを信じることはできないが、終末信仰の核心が述べられている。

まず「人に惑わされないように気をつけなさい」と言われ、6つのことを語っておられる。  
 ①自分がキリストだと言って、従わせようとする者が出てくるが、それらに惑わされてはならない。  
 ②民族と民族が敵対して戦争が起こり、方々で地震があり、飢餓が襲う。これらは、産みの苦しみの始まりである。  
 ③あなたがたは、地方法院に引き渡され、会堂で打ち叩かれる。総督や王たちの前に立たされ、福音の証しをすることになる。その証によって、福音が全ての民族に述べ伝えられることになる。  
 ④証しする時、何を言おうかと心配することはない。語るのはあなたがたではなく、聖霊が語るべき言葉を示してくださる。  
 ⑤兄弟と兄弟、父と子は互いに反抗し、死をもたらす間柄になる。  
 ⑥主イエスのために憎まれるが、最後まで耐え忍ぶ者は救いを得る。

これらの言葉は、初代教会の信徒たちが生々しく経験したことである。終末時には、このような混乱と苦難が襲うと言われた。